

## 2 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

### 1 調査の目的

- (1) 国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2 調査対象とする児童生徒

- (1) 小学校調査  
小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の5年生全員
- (2) 中学校調査  
中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校及び特別支援学校中学部の2年生全員  
※特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒の参加については、その障がいの状態等による。

### 3 調査内容

- (1) 児童生徒に対する調査
  - ア 実技に関する調査  
〔8項目〕握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（中学校は持久走との選択）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（小学校のみ）、ハンドボール投げ（中学校のみ）
  - イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等）
- (2) 学校に対する質問紙調査  
・子どもの体力の向上に係る学校の取組等

### 4 調査実施期間

- ・実技調査実施期間：令和5年4月から7月

### 5 調査実施校数（国立・公立、私立）

28,939校（小学校18,918校、中学校10,021校）

### 6 大分県児童生徒の状況

- (1) 調査校数・児童生徒数（公立）
  - ① 小学校（245校、男子4,669名、女子4,287名）
  - ② 中学校（116校、男子4,166名、女子4,064名）

## 7 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果（概要）について

### (1) 体力合計点による全国順位【資料1】

- ① 小学校5年男子 2位（九州1位）（R4：2位、九州1位）
- ② 小学校5年女子 6位（九州1位）（R4：3位、九州1位）
- ③ 中学校2年男子 1位（九州1位）（R4：5位、九州1位）
- ④ 中学校2年女子 4位（九州1位）（R4：7位、九州1位）

### (2) 体力合計点の状況【資料2】

- ① すべての対象学年において全国平均を上回っている。
- ② 本県はH30をピークに低下傾向であったが、小学校男子と中学校男女は昨年度を上回っている。

### (3) 各調査項目の結果【資料3】【資料4】

- ① すべての対象学年・種目において全国平均を上回っている。
- ② 小学校男女の長座体前屈、中学校男子の立ち幅跳びは、過去最高値であった。

### (4) 体力総合評価【資料5】

- ① 総合評価がC以上の児童生徒の割合は、すべての対象学年において全国平均を上回った。
- ② 本県のC以上の児童生徒の割合は中学校男子は増加、小学校男女、中学校女子はH30をピークに低下傾向である。全国は、小学校、中学校ともに男子は増加、女子はH30をピークに低下傾向である。
- ③ D・E層は、本県は小学校男女と中学校女子、全国は、小学校、中学校ともに女子は増加傾向である。

### (5) 児童生徒質問紙による調査結果【資料6】【資料7】【資料8】

- ① 運動やスポーツへの愛好度は、「好き」「やや好き」と回答した割合が、すべての対象学年において全国平均を上回った。
- ② 愛好度は、本県は、昨年度と比較すると小学校男女と中学校男子は増加、中学校女子は減少している。全国は、小学校、中学校ともに男子は増加、女子は減少している。
- ③ 1週間当たりの運動実施時間は、すべての対象学年において全国平均を上回った。昨年度と比較すると、すべての対象学年において本県、全国ともに下がっている。
- ④ 1週間当たりの総運動時間60分未満の割合は、すべての対象学年において全国平均を下回っているが、昨年度と比較すると、本県の上昇率は全国の上昇率より高い。

## 8 分析

- ① 本県の体力は、全国と比較すると依然高い水準にある。
- ② 体力合計点は、H30をピークに低下傾向であったが、小学校男子、中学校男女が前年度より増加、小学校女子は、これまでより下がり幅が減少しており、回復の兆しが見られる。
- ③ 総合評価のC以上の割合の変化を見ると、中学校の男子は増加があったものの、小学校男女、中学校女子は若干であるが減少傾向が見られた。これは、今年度、1週間当たりの運動実施時間の平均が全国より大きく減少していることから、運動実施時間の減少の大きさが要因の一つであると考えられる。
- ④ 愛好度は、全国的に見ても高い傾向にある。これは、継続的な授業改善に加え、運動が苦手な児童生徒も楽しく、取り組みやすい体育、保健体育の授業や「1校1実践」の工夫があったためと考えられる。

## 9 総括

- ① 本県の体力が全国と比較して高い水準を維持し続けているのは、これまで小学校体育専科教員、中学校体育推進教員を中心に、各学校が組織的に体力向上に取り組んできた成果と考えている。また、愛好度の上昇については、「わかる」「できる」「楽しい」を味わえる授業づくりや、運動の苦手な児童生徒に視点をあてた授業改善に取り組んできた結果と考えている。
- ② 体力の指標である体力合計点の数値は、H30をピークに体力の低下傾向が続いていたが、一部回復の兆しが見られた。これは、各学校が継続して組織的に体力向上に取り組んでいることに加え、新型コロナウイルスが5類移行したことで、より安心して体力向上に取り組むことができたことも要因の一つと考えられる。一方、運動実施時間の低下が顕著であることを踏まえ、学校・家庭・地域が連携して、運動習慣の形成につながる取組を充実させていく必要がある。今後も、学校において、運動の苦手な児童生徒に視点をあてた授業の工夫・改善に取り組むとともに、運動の日常化・習慣化につながる「1校1実践」の取組の充実を図っていく。